

水田 稲ワラすき込みの注意点について

堆積したワラはまんべんなく広げる必要があります！

令和8年9月16日
JA全農ちば 営農支援課

1. はじめに

8月の千葉豪雨から秋雨前線が活発に活動し、9月上旬まで断続的に大雨に見舞われました。大雨や河川・排水路の氾濫により収穫後の水田が冠水し、水の流れや強風により水田では刈取り後の稲ワラが吹き寄せられ、圃場の一角に堆積している状態が散見されます。来年の作付けおよび生育に影響を与えますので、早めに対策をしましょう。



一角に堆積したワラ

2. 堆積した稲ワラにはガス害（ワキ）のリスクがあります

一か所にワラが大量に残ると分解が進まず、植付け後に極度の土壌還元によって“ワキ”（ガス害）が発生し苗の活着が遅れることが考えられます。未分解のワラは地温上昇に伴い継続して分解が進むため、活着不良・分けつ遅れ等が懸念されます。

3. 稲ワラをまんべんなく広げ、腐熟促進を！

稲ワラ堆積による影響を改善・低減するためには残さを取り除き、土壌を乾かすことが大切です。なるべく早く堆積した稲ワラを取り除くか、圃場全体に広げて分解を促進させましょう。

腐熟促進資材も効果的です。散布後はできるだけ早く、深度5～10cm程度で浅くすき込みましょう。

表1 稲わらの腐熟促進資材

資材名	施用量(10a)	特徴
石灰窒素 (窒素 20%)	10～20 kg	有機物を腐熟する微生物の増殖に必要な窒素と、分解する働きを良くする石灰が含まれているので効果的。
わらゴールド	30～45 kg	微生物と有機物の連携により稲わらの腐熟化を促進。農薬や石灰窒素との混用は行わない。
アグリ革命アクア	100ml	酵素により、稲ワラの腐熟化を促進。 液剤はオモダカ・クログワイなど難防除雑草対策の秋防除除草剤と混用可。稲ワラが湿った状態が効果的。降雨後や朝露時に散布しましょう。
アグリ革命	2kg	

4. すき込みのタイミングは「秋中に」

春にすき込むと稲ワラ中に残っている窒素が生育期後半に出やすくなります。稲ワラの量が多い部分は分解時間も長く必要となってしまうので、出来るだけ秋中にすき込みを実施しましょう。